

7月の安全運転のポイント

平成27年7月号

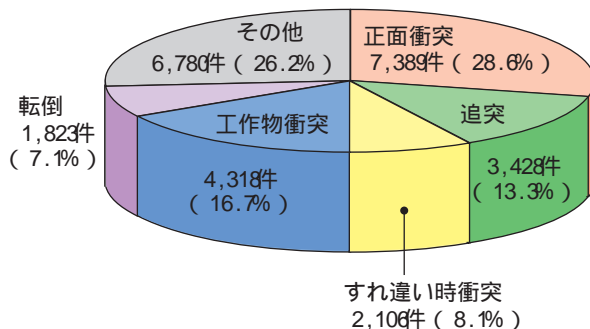
7月に入ると本格的な夏のシーズンの到来です。下旬からは学校も夏休みに入り、海や山へファミリーでのドライブを計画されている方も多いでしょう。山間部や海岸線の道路はカーブも多いものです。そこで今回は、カーブ走行について考えてみましょう。



カーブ事故の特徴

平成27年中の「カーブ・屈折」における事故類型別の交通事故発生状況を見ると、最も多いのが「正面衝突」、次いで「工作物衝突」、「追突」、「すれ違い時衝突」、「転倒」の順となっており、交差点や直線単路とは異なった特徴を示しています。（交通事故総合分析センター発行「平成27年版交通統計」による）

[カーブ・屈折における事故類型別交通事故発生状況]
(平成27年)



カーブ事故の原因

センターラインのはみ出し

正面衝突は、センターラインのはみ出しによって起こりますが、センターラインをはみ出す要因としては、

- ・右カーブでは、対向車は来ないだろうと考えて車線を横切ったり、前車を追い越そうとはみ出す
- ・左カーブでは、スピードを出し過ぎてカーブを曲がりきれずにはみ出す
- ・漫然と運転していて無意識のうちにはみ出すなどがあげられます。これらはいずれも重大事故に直結する危険な行為です。



スピードの出し過ぎ

カーブでは、車を外側へ引っ張ろうとする遠心力が働きます。遠心力は、スピードが速いほど大きくなりますから、スピードを出し過ぎるとカーブを曲がりきれずに、ガードレールなどの工作物に衝突する事故を招きます。

また、遠心力はカーブの半径が小さいほど（カーブがきついほど）大きくなりますから、カーブのきつさに応じてスピードを適切にコントロールしないと安全に曲がることはできません。特に夜間は暗いためにカーブのきつさが正しく把握できないケースも多く、スピードの判断を誤りやすくなります。

危険予測の不十分さ

カーブの手前では多くの車が減速します。それを予測せずに漫然と前車に追従して走行していると、減速した前車に気づくのが遅れて追突する危険性があります。

また、見通しの悪いカーブでは、カーブの先の状況が把握できません。特に左カーブの場合は死角が大きくなるため、危険の発見が遅れやすくなります。そのためカーブの先に停止車両があるかもしれないといった危険の予測をせずに走行していると、停止車両の発見が遅れて追突してしまうおそれがあります。

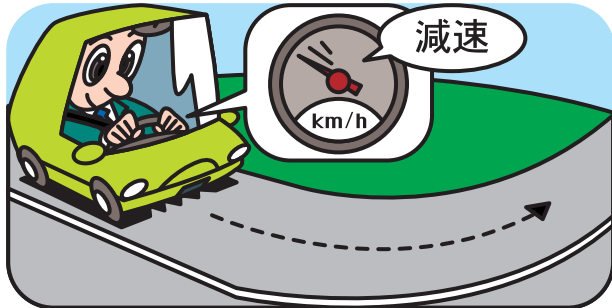




カーブでの安全運転のポイント

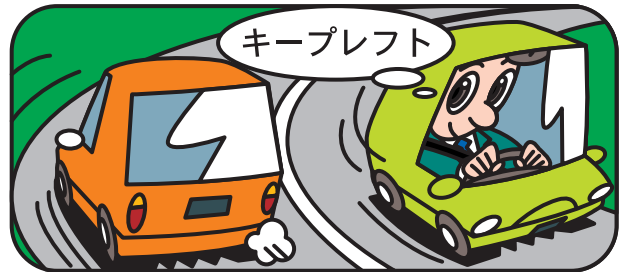
カーブの手前では必ず減速する

カーブ走行の基本は、カーブの状況に応じて手前で十分に減速することです。また、前車があるときは、車間距離も十分に確保しておきましょう。



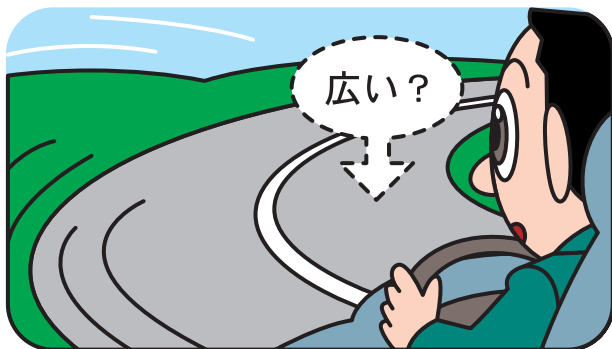
キープレフトの原則を守る

センターラインをはみ出さないということは当然のことですが、センターラインに寄り過ぎるのも危険が高まりますから、キープレフトの原則に従って、車線の左側を走行するようにしましょう。



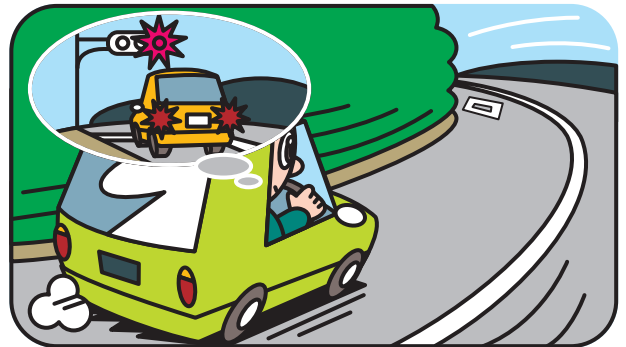
カーブでの錯覚に注意する

右カーブでは、対向車線のほうが広く見えるため、知らず知らずのうちに対向車線にはみ出すことがあります。左カーブでは自分の車線のほうが広く見えるため、スピードを出しやすくなりますから注意しましょう。



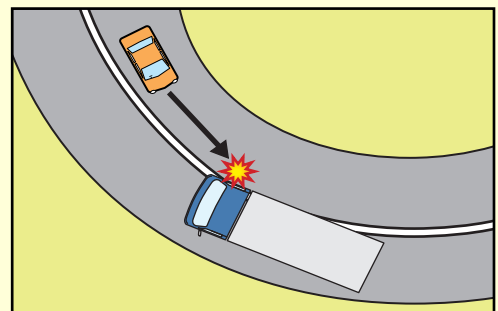
見通しの悪いカーブでは先の危険を予測する

見通しの悪いカーブでは、その先に信号があったり、道路工事などによる渋滞で停止車両などがあることも予測して、先の状況の把握に努めるとともに、危険を発見しても十分に対応できるだけのスピードで走行しましょう。



大型車に対する注意点

比較的道幅の狭いカーブでは、大型車の車体の一部がセンターラインをはみ出すことがありますから、そのようなカーブで大型車とすれ違うときは、特にセンターラインに寄り過ぎないように注意しましょう。



「ご相談・お申込先」